



独立行政法人
国立病院機構

九州医療センターニュース

2025 APRIL



基本理念

病む人に寄り添い、安全かつ最適な医療を提供します



公式キャラクター
ももろう®

九州医療センターの基本理念

基本理念は2018年10月に職員全員の意見を集約して決定されました。「病む人に寄り添う」とは、常に患者さんに接して苦痛や希望を知り、患者さんの権利を第一に、ご家族や重要な関係者の思いにも耳を傾けて温かい医療を実践する姿勢を表しています。「安全」な医療とは、検査および治療成績とともに当院での成績をもとに十分な説明を行い、患者さんの理解と同意を得て、可能な限り不利益を最小限化して提供する医療です。また「最適な」医療とは、病院の総合力を生かして、いくつもの選択肢の中から患者さんの自己決定権のもとで選ばれた医療を、患者さんと医療者が協議して実践する医療です。

職員は時代の変化と患者さんのニーズに柔軟に対応できるよう日々研鑽し、医療連携を推進し、病院の健全な経営にも積極的に参画し、一丸となって基本理念および運営方針を推進します。

INDEX

- ① 送る言葉 岩崎浩己
- ② 退任の挨拶 岡田、西山、富永、中村、占部、楠本、小野原
- ③ 異動の挨拶 大浦、海崎、荒武、成田、松尾、山下
- ④ 新臨床研修医へ贈る言葉 宮村、安藤、井上、久原
- ⑤ 医療最前線 大賀才路
- ⑥ ヒポクラテスのカフェ 吉住秀之
- ⑦ 生化学・免疫分析装置が新しくなりました！！ 染矢賢俊



送る言葉



NHO／九州医療センター愛の継承

病院長 岩崎 浩己

3月をもって定年退職を迎えた皆さま、昇任や配置換でご異動となられた皆さま、キャリアプランのなかで次のステージに進もうとされる皆さま、これまでNHOそして九州医療センターを支えていただきましたことへの深い敬意とともに心より感謝申し上げます。昨年の送る言葉では、オーストリアの精神医学者ヴィクトール・エミール・フランクルの名著「夜と霧」を題材に、「人生には意味がある」というやや重ための抽象的な文章を書いたように思います。今回は「NHO／九州医療センター愛」を強く感じる偉大な先輩方が退任されますので、率直に感謝の言葉を綴らせていただきます。

開院当初より31年間、九州医療センターの発展を牽引してこられた岡田靖先生は、知性と情熱に溢れた“行動する副院長”として、まさに余人をもって代えがたき存在であったと思います。私は2018年から臨床研究センター長として幹部会議に参加させていただきましたが、岡田先生のご発言には常にウイットに富んだユーモアが込められていて、言葉選びのセンスを学ばせていただきました。時に厳しいこともおっしゃいますが、間違いなく言えることは、根底にある「NHO／九州医療センター愛」を体現されていたということです。毎朝の岡田節が聞けなくなることは寂しい限りですし、先生の強烈な業務遂行力に頼れないこれからの中運営に不安もありますが、新体制で覚悟をもって（岡田先生がよく使われる表現では“カラダヲハッテ”）熱い思いに応えていきたいと思います。

私の院長就任と期を同じくして着任された西山ゆかり看護部長は、2年間の在任とは思えない圧倒的な存在感を示されました。一人ひとりの職員に思いやりを持って包み込むように対応される姿勢は、まさに看護の原点、揺らぐことのない安心感がありました。一言で言えばカリスマ性があるということですが、どんな時でもリスペクトをもって相手の話に耳を傾けられる誠実さ、緊張を解く話しやすい雰囲気づくり、根底にある確固たる理念と深い愛情、人との関わりを大切にされる西山

看護部長のマネジメントを学ばせていただきました。一人ひとりが生き生きとやりがいを感じながら仕事ができる環境づくりのお手本を、目の前で見させていただいた2年間でした。多くの病院で西山式マネジメントが実践され、豊かな心と穏やかな気持ちで仕事ができる幸福の輪が広がることを切に希望いたします。新米院長を支えていただき本当にありがとうございました。

NHO内で異動される皆さまには、お二人のNHO愛に満ちた善き行きを心に刻んで、新たな職場で学び成長していただきたいと思います。そして、いつの日か九州医療センターに戻られて、KMC愛を継承していただければ嬉しく思います。

長きにわたり高度な診療と研究ならびに教育を実践していました、楠本哲也がん臨床研究部長、中村俊博循環器センター部長、富永光裕臨床教育研修センター長、占部和敬皮膚科部長、小野原俊博血管外科部長に心より敬意を表します。

2年間の初期臨床研修を終えて巣立っていく医科28名歯科2名の若き医師たちには、九州医療センターで学んだことを誇りに、無限の可能性に挑戦し続けていただきたいと思います。

皆さまの人生が輝きを増していくことを祈念して送る言葉といたします。お疲れさまでした。

感謝



退任の挨拶

学習と成長の病院に感謝



九州医療センターに開院時から31年勤めてまいりました。1994年開設時から脳血管内科科長5年、厚生省九州地方医務局医療課長2年併任、再び病院で管理職として臨床研究部長、独立行政法人化後の統括診療部長まで9年、さらに臨床研究センター長8年、そして副院長7年間を振り返ります。

脳血管内科のアイデンティティ確立と脳血管センターのチーム医療

1994年7月当時、循環器病棟には内科外科16名、一方、脳血管病棟は脳内科2名、脳外科1名でスタートしました。脳卒中を全身の血管病ととらえ、急性期脳卒中の病態診断と内科治療、予防を主たる領域とした脳血管内科の確立に情熱を注ぎました。脳血管センター多職種チーム医療を実践し、全国からレジデントが集まり、Mission, Passion, High tensionを合言葉に一丸となって頑張りました。

医療行政、地域医療支援病院・臨床研究中核病院、倫理審査を経験

1999年から九州地方医務局（現九州厚生局）で医療課長を務め、九州管内の国立病院概況と医療行政を学びました。統括診療部長時代は紹介・逆紹介・地域医療連携の推進に取り組みました。脳血管障害地域連携バスも福岡市医師会と開発し、市内共通バスの普及に尽力しました。2013年臨床研究中核病院

前副院長（院内総務） 岡田 靖

の指定を受け、臨床研究センター長として本部総合研究センターとともに臨床研究倫理審査委員会の質向上など体制整備に取り組み、研究倫理が時代とともに変化していくことを実感しました。

働き方改革・医療安全・福岡県循環器病総合支援センターを統括

2018年から副院長として医療安全管理部長、総括安全衛生管理者、病院機能評価受審リーダーを務めました。脳内科時代は「3時間寝たら残りは仕事と勉強だ！」と皆に発破をかけ、今度は「6時間の睡眠確保、時間外は36協定の徹底遵守を」と真逆の号令で職員も当惑した事と思います。全医師のA水準を4年連続で達成し、職員のタスクシェアを推進しました。最後の3年は福岡県循環器病総合支援センターの委託を受け、その実務統括者として患者相談・研修事業の整備に尽力しました。

めぐり逢ったすべての人々に感謝

私はこの学習と成長の機会が豊富な九州医療センターで、情熱と使命感をもって日々明るく(A)愉しく(T)前向き(M)に生涯研修を続けながら生きてきました。これまでにめぐり逢い、ご指導ご支援をいただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。九州医療センターはこれからも職員が学び、経験価値を高めて成長し、一歩先の医療、医療制度を牽引し、輝く病院であり続けて欲しいと思っています。ありがとうございました。

退任のご挨拶

前看護部長 西山 ゆかり



令和7年3月31日付をもちまして、九州医療センターを退職いたします。看護師として7年、看護教員6年、看護師長9年、副看護部長5年、教育主事2年、看護専門職3年、看護部長として8年間、NHOにお世話になりました。最後の2年間、九州医療センターの看護部長として勤務できたことは、本当に有難く、幸せな看護師人生でした。高度先駆的総合医療を実践している九州医療センターの看護部長として、患者さんとその家族に寄り添い、質の高い看護ケアを提供することを使命としてきました。「人を活かす看護マネジメント」を基盤に、看護師長会では、患者さん・職員に寄り添うプロジェクト、副看護師長会ではナレッジマネジメントを取り入れた会議運営を行っています。自部署の取り組みを共有し、対話によって暗黙知を言語化し、概念化していく場を作っています。一人ひとりが輝く職場を一緒に

に作っていけるよう、各委員会も活発に活動しています。看護職員の離職が半減し、職務満足度も上がっており、皆で取り組んだ成果が出てきています。創立30周年のメモリアルイヤーに病院機能評価を受審し、岩崎院長が掲げた「一人ひとりがKMC」という病院スローガンのもと、それぞれが役割を發揮し、職員一人ひとりの善き行いの総和が組織の力になることを体感しました。志高い、職員の皆さんと共に勤務することができて、看護管理者としてのやりがいを感じる毎日でした。

釈迦の格言で、「対面同席五百生」という言葉がありますが、今日の前に同席して対面している人は、これまでまったく見知らぬ人でも、最低でも五百回、人生を何らかの形で共にしているという教えです。九州医療センターでいただいたご縁を大切にして、これからも、彩りある毎日をおくりたいと思います。私と出会ってくださったすべての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。結びに、九州医療センターの益々のご発展をお祈りいたします。



16年間大変お世話になりました



九州医療センターの皆様、大変お世話になりました。お陰様で無事定年退職を迎えることが出来ました。ありがとうございます。

振り返りますと、医局の人事に逆らえず、まずは当院開院時に、腎・高血圧内科のスタッフとして赴任しました。

北九州市八幡東区からの異動であり、完成したばかりの宿舎に入居させて頂きました。開院当初は、建物のみならず全ての部門が新しくスタートする刺激的な経験をしました。また、所属診療科の上司のみならず、循環器内科をはじめ多くのスタッフの方々からも沢山のご指導を受けました。4年9か月の在籍後、次の赴任先である九州中央病院へ暖かく送り出して頂いたことを思い出します。そこでは、当院のバックアップもあり、循環器内科部長として勤務することが出来ました。

その後、約15年が経過した2013年12月に再び当院に赴任させて頂きました。高血圧内科科長は、私にとって余りにも荷の

前高血圧内科科長/臨床教育研修センター長 富永 光裕

重い役職でしたが、先輩、同僚、そして高血圧外来に通院して頂いた患者さん達に支えられて、合計16年間も勤務させて頂きました。その間、超音波・生理検査センター長、NHO九州グループ医療担当参事、臨床教育研修センター長も経験させて頂きました。それぞれ有能なスタッフの方々に恵まれ、医療人としての視野も広げることが出来たと思います。

最初の赴任以来、家族は百道浜が大好きになり、一度も離れずにこの地での沢山の思い出を作ってくれました。3人の子供の出産から家族全員の健康管理についても、当院にご対応頂き感謝しております。

今後、高血圧内科は、開院当初同様に再び腎臓内科へ統合させて頂き、腎臓・高血圧内科の高血圧部門として再スタートします。私はシニアドクターとして、もう少し当院の高血圧診療に携わる予定です。これからもご支援の程よろしくお願いします。

九州医療センターでの31年間を振り返って



2025年3月を以て九州医療センターを退任しました。私の定年退職に際し、これまでのご厚情に深く感謝申し上げます。

1994年7月に国立病院九州医療センターが開院し、開院当初から循環器内科医として勤務を始めて31年が経ちました。九州医療センターに最も長く勤務した職員の一人ということになります。開院以来、病院の黎明期から発展期、そして成熟期まで、一医師としてこの病院で働き続けたことを誇りに思っております。この間、多くの先輩、同僚、後輩医師の皆様をはじめ、病院すべての職種の皆様と共に歩んできた日々は、私にとって掛け替えのない宝物となりました。特に、患

前循環器センター部長 中村 俊博

者さんの健康を守るために循環器内科スタッフが一丸となって日々努力し、名実ともに大きな成果を上げてきたことは、私にとって望外の喜びであり、充実感と達成感を得ることができました。

長い年月の病院勤務をここまで続けることができたのは、沢山の皆様のご指導、ご支援のおかげであった事は間違いません。心からの感謝の気持ちをお伝えしたく存じます。

今後の九州医療センターのさらなる発展を確信して、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



1996年2月 開院当初のスタッフ、冷牟田浩司先生、本間友基先生と共に心カテ室（当時は手術室内にありました）にて

退任の挨拶

前皮膚科科長 占部 和敬



2007年に赴任してから、18年間皮膚科科長として務めさせて頂きました。30歳頃、九州医療センターでの勤務も選択肢の1つと考えていましたが、偶々前任の今山修平先生が九州医療センターを退任され、当時の九州大学教授の古江増隆先生から科長の件お話を受けました。当時は朔 元則先生が院長で、朔先生の面接を受け、九州医療センターで働くことを決意しました。前任の今山修平先生が7年間勤められたので、それを目標にしていましたが、いつの間にか18年が過ぎていきました。この間、33名もの若い先生と共に働く機会に恵まれました。特に原田佳代先生には10年以上にわたり、手術を中心に、また生物学的製剤の患者を一手に引き受けてもらい、私の右腕として私を支えてもらいました。赴任当時、皮膚科病棟は血液内科と同じ9東で、皮膚科患者は汚くて血液内科の免疫低下している患者の感染症

のリスクを上げると血液内科の先生方に評判が悪かったにも関わらず部長の岡村精一先生には大変優しく接して頂きました。先生が地行中央公園で煙草を吸いながら深く考えに耽っている姿が印象的でした。また、科長室で同室だった救急部の小林良三先生には重傷患者を何度も助けていただき大変お世話になりました。形成外科の森久陽一郎先生と前任の井野 康先生には皮膚科で無理な手術をいくつも引き受けてもらい感謝しています。皮膚科を受診された膠原病の患者さんは膠原病内科の宮村知也先生にほとんど丸投げ状態で大変お世話になりました。他の先生方にも様々な機会でお世話になりました。感謝します。皮膚科ではなるべく他科のニーズに応えるべく、診察日でない日でも急なコンサルは断らずに対応してきたつもりですが、少しでも皆様のお役に立てていれば幸いです。今後は幸田 太先生が引き継ぎますが、今後も皮膚科をよろしくお願いします。

5回の九医セン勤務・・お世話になりました



2025年3月末日を以て九州医療センターを定年で退職致します。
私の外科医としての経歴は、国立福岡中央病院外科で臨床研修医として1年、その後学位取得・留学を経て、当院で医師として2年間×2回勤務しました。関連病院での勤務後、医長として1年務め、別府医療センター・九州大学を経て、2013年から現職に就いています。計5回当院に赴任したことになります。

この間、医師のみならず多くの職員の皆様に大変お世話になりました。とりわけ、最初の赴任時に外科部長でいらっしゃった朔 元則院長はじめ歴代勤務された多くの先輩方には、私の母教室の教室訓「一に人格 二に学問」という社会人としての礼儀・常識と外科医としての学術・技術・心構えを教えていただきました。私が全力を尽くすことができたのは、これら病院関係者の皆様、そして患者さん方とのご縁のおかげです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

前消化管外科・がん臨床研究部長 楠本 哲也

私の専門は、消化管癌に対する集学的治療です。今や生涯に亘り国民の半数以上（男性は5人のうち3人）が癌を経験し、4人に1人が癌で亡くなる時代です。当院では、固形がん領域の臨床研究部を主催させていただき、これまで多くの胃癌・大腸癌はじめ消化管癌の治療の研究・開発の一端に携わってきたという自負があります。今後ますます発展していくであろうこれらの治療の最前線を見届けたいという想いもあります。ぜひとも九州医療センターにはその最前線に立ち続けていただきたいものです。

今後も九州医療センターのさらなる発展を心から祈念しております。また、同時に皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。長年のご支援に感謝し、新たな未来に向けての一歩を踏み出します。

有難うございました。



満足な血管外科医人生を過ごせ感謝です

前血管外科科長 小野原 俊博



2007年から18年間、当院血管外科の医長・科長として仕事をさせていただきました。この間、腹部および胸部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術に始まり、薬剤溶出性ステント、薬剤コーティングバルーン、末梢血管用ステントグラフト等の末梢動脈疾患用の新規デバイス、下肢静脈瘤に対する血管内治療（焼灼・塞栓）を導入しました。血管内治療全盛の時代となりましたが、腎動脈上遮断を伴う腹部大動脈瘤手術、内臓動脈バイパスを併施した胸腹部大動脈ステントグラフト内挿術、下腿動脈バイパス手術など難易度の高い血管外科手術にも多く携わることができました。また、肝胆膵外科手術での門脈再建や、泌尿器科手術での下大静脈腫瘍塞栓摘出など、血管外科の枠を超えた手術も多数経験させていただきました。

研究面では、血管外科症例のデータベースを整備して、全国学会の上級演題に毎年採用される体制を作り上げました。血管外科の分野では当科は全国区の施設として認知されていると思います。振り返れば、医師として2年目に当院の前身である国立福岡中央病院時代に研修医として勤務し、現在も師と仰ぐ朔元則先生（元当院院長）や故 古山正人先生（元大牟田病院院长）に出会いました。古山先生からは、当時は珍しかった血管内治療の手ほどきも受けました。2003年には、古山先生の後任として現在と同じ立場で勤務しましたので、医師人生の約半数をこの病院で過ごしたことになります。この18年間は血管外科医として楽しく充実した外科医人生を過ごすことができました。これも、一緒に働いた同僚や関連する診療科の先生方をはじめとして、すべての職員の皆様のおかげと感謝しております。今後の九州医療センターの益々の発展と、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

異動の挨拶

異動のご挨拶



この度、鹿児島医療センターへ異動することになりました。九州医療センターでは3年間の勤務となり、九州医療センターでしかできないような多くの経験をできたことに感謝いたします。特に装置更新については、放射線治療装置、骨密度装置、PET-CT装置、透視装置、血管造影装置、CT-シミュレーター、1.5TMRI装置、密封小線源治療装置に携わることになりました。また、静脈路確保、コロノグラフィでのタスクシ

前診療放射線技師長 大浦 弘樹

フト・シェアにおいても多くのご指導をいただき推進することができました。診療では、ハイブリッド手術室でのTAVIが開始され、これまでの悲願でありました床面積約1100平方メートル超の放射線治療新棟竣工にも立ち会うことができました。慌ただしく、様々なことがあった3年となりました。次の職場ではいただいたご指導を糧に頑張りたいと思います。九州医療センターの大きな未来と職員の皆様方のご活躍を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

3年間お世話になりました。

前企画課長 海崎 健也



令和4年4月から管理課を1年、企画課を2年間勤務させていただきました。初年度は感染症がまだ猛威をふるい、同時にアフターコロナへ向けて「コロナで失った時を取り戻す」ウィズコロナの時期でした。管理課では中断した行事等をコロナ禍で再開できるか模索し、企画課では老朽化した建物及び医療機器を数多く更新しました。コロナ等で止まっていた当院の時計の針を戻し、かつ先に進めるような3年間だったと思います。

後半は「厳しい経営状況」の話しばかりでしたが、過去の経験からも九州医療センターの底力をもってすれば、この難局は必ず乗り切ることができると私は思っています。それは「ヒト、モノ、カネ」のうち最初に来るのはやはり「ヒト」。九州医療センター職員1人1人の力が結集すれば現状を打破できる信じているからです。

最後に九州医療センターの益々の発展と職員の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。3年間ありがとうございました。

5年間ありがとうございました



私は2020年に九州がんセンターより赴任しました。肝細胞癌の診療においては肝胆脾外科、放射線科の先生方をはじめ、化学療法時の副作用への対応等に関する多くの診療科の先生方に大変お世話になりました。また多くの他科の先生方やコメディカルの方々には、併存疾患診療や救急診療などさまざまな場面で助けていただき誠にありがとうございました。2022年から多職種連携で立ち上げた、未診断C型肝炎患者さ

前消化器内科（肝胆脾）医長 荒武 良総

んを新規に診断し抗ウイルス治療へつなげる「肝炎パトロール」活動では、皆様のご協力によりDAA治療へつながる症例が増え、昨年度当院の年間DAA症例18例のうち3分の1にあたる6名の方を、チーム活動を契機に治療へと導くことができました。後任に引き継ぎますが今後ともご協力を頂けますと幸いです。

この5年間の経験をさらに生かして精進して参りたいと思います。皆様には心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

命の前で、謙虚であれ



救急領域では説明不要の、福井大の林寛之先生のメッセージです。私の座右の銘の一つでもあります。

四半世紀臨床医をやってきて、原病の重さで助けられなかった患者さんが多数おられる中、私の力不足で助けられなかった、あるいは死なせてしまった患者さんも少なからずおられます。

2年間という短い間ではありますが、九州医療センターでもたくさんの患者さん、その家族との出会いがありました。これから活躍してもらう（そして、私たちが倒れたら診てもらう）研修医や若手スタッフたちにも、1例1例の症例から謙虚に学

前救急科医長 成田 純任

んでほしいというメッセージを込めて表題の言葉を送りたいと思います。

2025年より後進に伝えたいたこと、仕事や生活の雑感をNOTEの記事に残すことを始めました（遺書がわり？）。よかつたらお目汚しかもしれませんがご覧ください。

最後に、新病院に向かう九州医療センターのますますの発展を祈念して稿を終えたいと思います。ありがとうございました！



異動のご挨拶



1年間という大変短い期間ではございましたが、未熟で知識不足であるために、私と関わりがあった皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

令和6年度は九州医療センターの創立30周年の年であり、記念の行事などに参加させていただいて、改めて偉大な諸先輩方の功績を実感し、素晴らしい病院で働かせていただいていることを実感することができました。

前経営企画室長 松尾 俊宏

経営企画室長という病院の経営を預かる職につきながら、この1年間経営状況は芳しくなく、道半ばにこの病院を去ることを大変申し訳なく、また残念に思います。令和7年度も病院を取り巻く環境は依然厳しく、健全経営に向けて病院職員が一丸となって取り組むことが必須となってきます。岩崎院長のリーダーシップのもと、この困難な状況に立ち向かってください。陰ながら応援しております。1年間大変お世話になりました。

異動のご挨拶



この度、国立病院機構本部へ異動となりました。九州医療センター開院30周年の年に職員の一員となれたことを嬉しく思っております。機能評価に適時調査、1年という期間でしたが凝縮された濃厚な時間でした。看護スタッフの笑顔や熱心にカンファレンスを行う姿、患者さんの回復に涙する姿、委員会で意見交換をする姿、成果を出して頑張っている姿、

前副看護部長 山下 智美

どれも臨床だからこそ体験できることだと実感いたしました。臨床現場は毎日様々な出来事が発生します。その一つひとつに対応していく中で道標となるのは「寄り添う」でした。こんなにも理念が職員に浸透した病院はないと思います。個性豊かで熱心で真摯に仕事に取り組むひとつのチームで、時にはユーモアと笑いがあふれる組織です。九州医療センターの強みは「職員ひとり一人の力」なのだとあらためて思いました。

皆様の今後のご発展とご活躍を心よりお祈り申しあげます。

新臨床研修医へ贈る言葉

臨床教育研修センター長 宮村 知也



この春、皆さん当院で臨床研修を開始されることを心より歓迎します。医師としての第一歩を踏み出す皆さんには、多くの学びと挑戦が待っています。これから始まる初期研修の2年間は、医師としての人格を涵養し、医学と医療の社会的役割を理解しながら、基本的な診療能力と価値観（プロフェッショナリズム）を培う大切な期間です。医師の目標は、単に病気を治すことではなく、患者さんの人生に寄り添い、最善の医療を提供することです。そのためには、常に学び続ける姿勢と向上心を持ち続けることが不可欠です。時には困難に直面し、迷いを感じることもあるでしょうが、仲間や指導医、スタッフの方々と協力しながら、積極的に研修に取り組んでください。当院では、プライマリ・ケアから最先端医療まで、幅広い臨床経験を積むことができる充実した研修環境を整えています。当院での経験を糧に、患者さんに信頼される医師へと飛躍することを期待しています。



新研修医の皆さんへ

研修医 安藤 加菜子

新研修医の皆さん、医師国家試験合格おめでとうございます。そして、九州医療センターへようこそ！

研修のスタートにあたり、最初は慣れないことが多く不安に感じることもあるかと思います。多くの勉強や新しい経験に圧倒されることもあるでしょうが、焦らず一歩ずつ学んでいってください。

当院の魅力の一つは、多くの同期がいることです。悩みを共有し、切磋琢磨しながら共に成長できる環境が整っています。



新生活を楽しんで！

新研修医のみなさん。国試合格おめでとうございます。勉強お疲れ様でした！そして九州医療センターへようこそ！新しい生活への第一歩を踏み出すにあたり、嬉しさや期待を感じつつ不安も胸に抱いています。実際に働き始めた時、想像していた事と異なり戸惑いや恐怖を感じてしまうかもしれません。ですが当院には上級医や同期、他職種職員が多く在籍しています。同じ道を経験し、悩み進んでいった先輩方



研修医生活で大切にしていたこと

研修医 久原 洋平

4月から新社会人として九州医療センターで医師としての歩みを始められる研修医の皆さん、おめでとうございます。これから臨床や研究の現場で学びと挑戦の連続ですが、その一つ一つの経験が自分自身を成長させ、患者さんに寄り添える医師へと導いてくれると思います。

私自身もまだまだ未熟ですが、九州医療センターでの2年間の研修を終えるにあたり、研修医の期間に心掛ける最も大切な事は、「謙虚に学ぶ」という姿勢だと感じました。

ます。悩んだ時には、ぜひ周囲の仲間や指導医に相談してください。また、研修を楽しむ姿勢も忘れず同期と一緒に素敵なお出でを作ってください。

当院には尊敬できる指導医が多く、幅広い診療科を経験できる機会があります。各診療科で受け身にならず、積極的に関わりぜひ多くのことを吸収してください。この2年間はあっという間に過ぎ去ります。自ら学び、挑戦を重ねることで、充実した研修を送ることができるはずです。皆さんの成長と活躍を心より願っています。

や他視点からアドバイスをくれる他職種職員の助けを借りながら、同じように悩み成長していく同期と協力して自分の目標とする医師像に近づけるよう突き進んでください。そして何より、この2年間を楽しみながら研修してください。今後の人生において人脈を広げておく必要もあると思います。院内での時間を濃いものに、院外での自分時間も大切にして、様々な人と関わりながら成長してください。みなさんの今後の活躍をお祈りしております。

どんな名医でも最初は皆さんと同じ研修医から医師のキャリアは始まっています。疑問に感じた事は遠慮なく、教えて頂いている先生に聞くことは日々の成長の鍵の一つです。

また、医療は一人では限界があります。事務、看護師、臨床検査技師など多職種の方々と共に支え合って医療は成立しているので謙虚な姿勢でコミュニケーションをとり信頼関係を築きましょう。皆さんが充実した研修医生活を送ることを心より願っています。

放射線治療センター開設

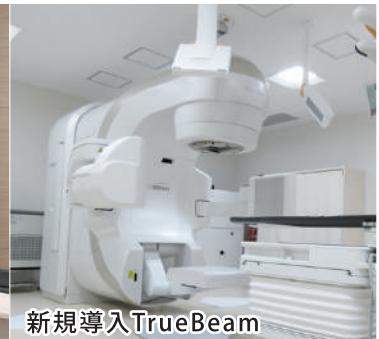
放射線治療科長 大賀 才路



放射線治療センター外観



放射線治療センター内



新規導入 TrueBeam

がんは日本人の三大疾病の一つであり、その対策は重要です。九州医療センターでは日々進化する癌治療に対応すべく、癌の代表的治療の一つである放射線治療の充実のため、この度放射線治療センターを開設し、新規放射線治療装置を導入いたしました。

2025年1月28日に院長・副院長・放射線部部長・放射線治療科長・看護部長・各診療科長・事務関係や報道関係の方々の出席のもと放射線治療センターの開所式を取り行いました。テープカットや院長・放射線治療科長よりあいさつなどがありました。開所式開始時には外ではみぞれ交じりの雨が降っていましたが式終了後の放射線治療センター前での記念撮影の時には雨もやんでもり、予定した式を滞りなく実施することができました。その後は、報道関係の方に対して放射線治療装置の紹介や質問に対する説明が放射線治療科長より行われました。

この度開所した放射線治療センターは体外照射用治療室2部屋、小線源治療室1部屋、治療計画用CT室1部屋、治療計画室、診察室などを有しており、放射線治療に関連した医療行為全般をセンター内で実施可能となっています。現在、体外照射用治療室1部屋に最新鋭の体外照射治療装置TrueBeamが設置され、開所式に先立って2025年1月6日より稼働しています。

TrueBeamは通常の放射線治療から定位放射線治療や強度変調放射線治療といった高精度治療までを実施可能な守備範囲の広い治療装置になります。緩和照射はこれまで以上に簡単に実施可能となるだけでなく、根治治療特に定位照射においてはより照射方向の自由度が上がり、線量集中性のよい治療が実施可能となります。これまで腫瘍線量が低いため病変の局所制御が不十分であった多発脳転移に対しても各転移巣への線量増加と周囲脳組織の線量低減を行ったプランの作成から治療実施までがより短時間に簡便に行うことができるHyperarcという治療技法をTrueBeamで実施可能となります。当院ではTrueBeamは2023年6月より稼働を開始したHalcyonに加えて2台目の体外照射実施装置になります。Halcyonは強度変調放射線治療を得意とする治療装置であるため今後は根治を目指した強度変調放射線治療はHalcyonにて、通常の3次元放射線治療や定位照射はTrueBeamにて個々の治療装置の特性を生かしてそれぞれの患者さんに最適な治療を提供していく予定です。

また、3月には小線源治療室に福岡市内では初となる小線源治療装置Bravosが設置され、4月中旬より稼働予定です。この小線源治療室は同室CTを有しています。これまででは治療器具を患

者さんに留置したのち治療計画CT撮影のため、別室のCT室への移動が必要でしたが、これからは同室内でCT撮影が可能となるため、治療時間の短縮と患者さんの安全性向上が期待できる設備になっています。Bravosは豊富なアプリケータのラインナップにより患者さんの腫瘍進展に合わせた治療の実施が可能となります。これまで子宮頸がんを中心に組織内照射と腔内照射を組み合わせたハイブリッド腔内照射にてより腫瘍範囲に合わせた障害の少ないかつ治療効果の高い治療を実施してきましたが、今後はより実施しやすい環境が整うことになります。

放射線治療センターでは患者さんにとって快適に放射線治療を受ける環境を整備しております。放射線治療に当たっては着衣を着替えることがあります、放射線治療センターには更衣室を4室配備しました。他の治療患者さんに気兼ねすることなく更衣実施可能な設備にしています。また、治療前や診察前の待ち時間への対応として待合場所を治療室のある中央と診察室のある入り口近くの2か所に配置しています。放射線治療センターは入口から診察室、治療計画用CT室そして第一リニアック室と患者さんの使用頻度の高い設備から順次配置されており、来院する患者さんが利用しやすくなっています。

放射線治療センターの開所によって九州医療センターで提供できる放射線治療の幅は広がり、患者さんの状態に則したより最適な治療が実施可能となりました。今後はこの放射線治療センターにて多くの患者さんの癌を治し、また癌による症状を改善させることで地域医療に貢献するとともに日本における癌医療の発展に寄与してまいります。



放射線治療センター開所式の様子





彦島の北方に六連島がある。ここは下関名産雲丹の塩辛の発祥地である。小さな島であるが、どうした加減か雲丹が繁殖していて、漁村の副業に塩辛を造っていた。

(青木正児『九年母』)

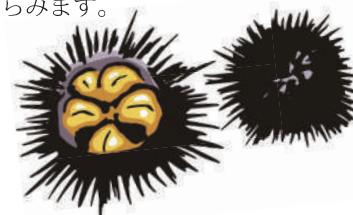
今から4億6500万年前のオルドビス紀にすでにその祖先が出現していたウニは、ヒトデやナマコと同じ棘皮動物門に属する生物ですが、ヒトデやナマコとは違い、和食の食材として珍重されており、江戸時代には唐墨、海鼠腸とともに三大珍味とされ別格の扱いをされています。どれも左党にとっては垂涎の品ですが、食通の小説家吉田健一は下関のびん詰めの雲丹を推奨していました（『私の食物誌』）。

外見は大きく異なりますが、構造上はヒトデと同じで、五放射相称構造をとっており、球状の骨格の頂面に位置する排泄口（肛門）を取り囲むように5つの生殖巣が並んでいます（なのでウニは海底で天に向かって糞を出していることになります）。私たちが舌鼓をうっているのは、その生殖巣で、一つのウニから5腹しか採れません。表面のつぶつぶ（生殖小囊）の一つ一つに栄養細胞と生殖細胞（精細胞か卵細胞のどちらか）が含まれており、ウニの成長と共に雌雄のいざれかになります。卵巣の方は次第に苦味が出てくるため、栄養細胞が成長しきっているけれども、まだ雌雄がない状態のものが商品価値として高く、それが採れる時期がウニの旬です。したがって魚屋で売られているウニには雌雄の区別はまだありません。精巣の方が、

旨味があるので、高級寿司店では雄のみを集めて握るところもあるそうです。

「脳」も「眼」もないウニですが、その棘は海上から降り注ぐ光を感知する能力をもち、棘に覆われた体全体があたかも1つの目として機能します。密生する棘のすき間からは吸盤のある管足を伸ばし移動できます。棘の根元には、キャッチ装置（catch apparatus）という筋肉と韌帯様の結合組織があり、その硬度を自由に調整することで棘を固定したり、自由に動かせるようにしたりするしくみです。

排泄口の反対側には口があり、5枚の鋭い歯をもつ咀嚼器が備わっています。動物学の祖と言われるだけあってアリストテレスは、その形態を記載しており、彼にちなんでこの咀嚼器は、アリストテレスのランタンと言われます。アリストテレスはこの構造に感嘆しながら解剖し、一日の研究が終わったらその成果を噛みしめつつウニとワインで一杯やっていたのではないかでしょうか。その後もウニは採集しやすく卵や精子が得やすいため、発生生物学や細胞生物学の研究材料として古くから使われてきました。しかし世代交代周期が1～2年と比較的長いため、遺伝子変異系統などを解析する遺伝学分野での導入は遅っていました。2020年には世代交代が短いハリサンショウウニ (*Tenmopleurus reevesii*) にゲノム編集技術を応用し、遺伝子ノックアウトウニが初めて作製されました。体色素合成に必要なポリケチド合成酵素（polyketide synthase）の遺伝子領域を欠失させることで生まれたのは、外見が真っ白なアルビノ個体でした。ウニの白子というわけですが、このウニの旬の味はどんなものなのか想像がふくらみます。

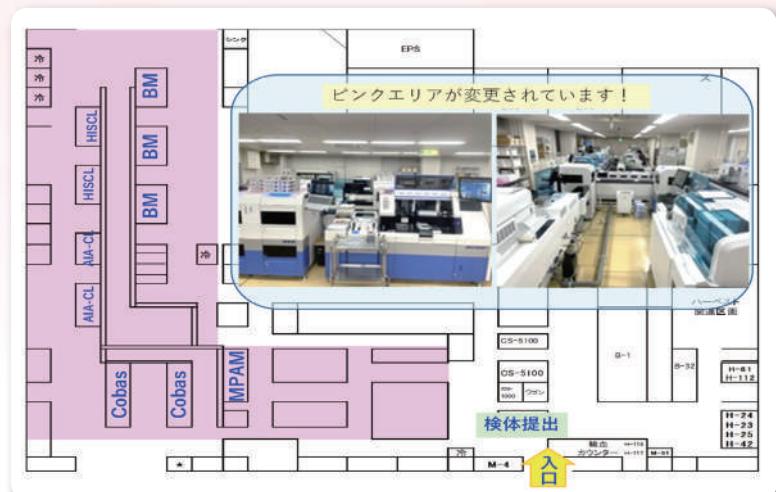


生化学・免疫分析装置が新しくなりました！！

臨床検査部では、この度「生化学分析装置、免疫学分析装置」が更新されR7年2月12日より稼働しています。検査室には大型の分析装置とそれらを連結する搬送機器、制御するパソコンなどがところ狭しと配置され、さながら工場のように感じる方も多いのではと思います。臨床検査部にはそれぞれの診療科から毎日2,000本を超える大量の採血管が届きます。そのうち約1,200本が生化学と免疫項目の検査です。この膨大な検体を正確かつ迅速に報告するためには、自動分析装置とコントロールする検査技師の活躍なくしては成り立ちません。今回、更新された装置は10台（生化学3台、免疫6台、検体搬送・格納装置1台）で、分析項目は92項目（生化学52項目、免疫40項目）に対応しています。処理能力はこれまでの約1.3倍、分析精度もさらに向上し、検査報告時間も短縮できるものと期待しています。

職員の皆様、いつでもご案内させていただきますので、どうぞ最新の機器を見に臨床検査部にお越し下さい。今後とも引き続き臨床検査業務にご理解とご支援をいただきますようどうぞよろしくお願ひいたします。

文責：臨床検査部 部長 荒川 仁香 技師長 染矢 賢俊



人事の動き

令和7年1月2日～令和7年4月1日

医療職（一）

就任	皮膚科医長	幸田 太	副院長	岡田 靖
	代謝・内分泌内科医師	阿部 隼希	がん臨床研究部長	楠本 哲也
	血液内科医師	今永 博	循環器センター部長	中村 俊博
	腫瘍内科医師	田口 綾祐	皮膚科医長	占部 和敬
	脳神経内科医師	中西 泰之	高血圧内科医長	富永 光裕
	脳神経内科医師	芝原 友也	血管外科医長	小野原俊博
	脳神経内科医師	池内 泰仁	代謝・内分泌内科医師	押領司虞子
	消化器内科医師	高松 悠	腫瘍内科医師	桑山 美幸
	消化器内科医師	梅北 慎也	脳神経内科医師	土居 靖宗
	消化器内科医師	堀内 敦史	脳神経内科医師	森 興太
	呼吸器内科医師	田中 智大	脳神経内科医師	溝口 忠孝
	循環器内科医師	高瀬 進	脳神経内科医師	田川 直樹
	小児科医師	井形 優平	消化器内科医師	荒武 良総
	精神科医師	武井 光	消化器内科医師	佐々木泰介
	放射線科医師	西村 俊輔	消化器内科医師	三木 正美
	消化器外科医師	中西 良太	呼吸器内科医師	児嶋 隆
	乳腺外科医師	樋脇 遥	循環器内科医師	矢加部大輔
	呼吸器外科医師	波呂 祥	小児科医師	藤吉 順子
	脳血管内治療科医師	森田 隆雄	小児科医師	西村 真直
	脳神経外科医師	米倉康太郎	精神科医師	西岡 慧
	心臓外科医師	米倉 隆介	放射線科医師	前原 純樹
	心臓外科医師	松尾 彰信	消化器外科医師	吉田倫太郎
	血管外科医師	岩佐 憲臣	肝胆脾外科医師	新井相一郎
	整形外科医師	徳永 修	乳腺外科医師	渡邊 秀隆
	泌尿器科医師	中野 康弘	呼吸器外科医師	長野 太智
	眼科医師	芳賀 聰	脳血管内治療科医師	東 英司
	婦人科医師	大藪友里恵	脳神経外科医師	福田 峻一
	産科医師	森田 葵	心臓外科医師	元松 祐馬
	婦人科医師	森下 優史	心臓外科医師	岡本 光司
	耳鼻咽喉科医師	澄川あゆみ	整形外科医師	原 正光

医療職（一）

就任	泌尿器科医師	森原 楓
	眼科医師	和田 伊織
	皮膚科医師	村田 真帆
	婦人科医師	庄 とも子
	婦人科医師	中並 弥生
	産科医師	田中 大智
	耳鼻咽喉科医師	藤村 晶子
	救命救急科医師	成田 純任

医療職（二）

就任	診療放射線技師長	大井 邦治	診療放射線技師長	大浦 弘樹
	副診療放射線技師長	宮寄 義章	副診療放射線技師長	北口 貴教
	副臨床検査技師長	広瀬 亮介	副臨床検査技師長	松尾 龍志
	副理学療法士長	伊集院万人	副理学療法士長	山本祐紀恵

医療職（三）

就任	看護部長	太田 恵子	看護部長	西山ゆかり
	副看護部長	今村 蘭子	副看護部長	山下 智美
	看護師長	東 泰吾	看護師長	中村千夏子
	看護師長	副島 理沙	看護師長	内山 瑞乃

事務職

就任	企画課長	井上 博之	企画課長	海崎 健也
	経営企画室長	西坂 賢一	経営企画室長	松尾 俊宏
	庶務班長	江藤 貴浩	庶務班長	金城 宏和



編集後記

今回の桜は2年前の3月26日に福岡城跡の天守台から撮影したものです。福岡城内の桜は、第2次世界大戦後に植えられたものですが、江戸時代にも6代藩主の黒田継高公が桜の鑑賞会を開いたという記録が黒田新続家譜に残っているそうです。

私は、2008年44巻からこの111巻まで表紙を担当させていただきました。目に留まる表紙があったなら幸いです。

前副委員長 占部 和敬

4月より編集委員長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。

毎年4月は、多くの別れと出会いの季節です。今年は、31年間にわたり当院にご尽力くださった岡田先生が退職されました。長年にわたるご貢献に、心より感謝申し上げます。

一方で、新しいスタッフも加わり、院内がより活気に満ち、明るくなったように感じます。新年度が皆さんにとって明るく、楽しい一年となりますよう願っております。

編集委員長 中島 寛彦

医事統計 患者数・診療点数の推移

■令和6年度は、月平均在院患者数605人と、病床利用率86%達成に向けて取組んで行きましょう！（令和7年2月現在の暫定値）

外来新患者数は、令和7年2月までの実績で21,115名と前年同月までと比べ843名の増となっております。今年度も、新紹介患者の確保と逆紹介の推進が重要となります。1日平均外来患者数は、2月までの実績で887.7名と前年同月までの実績（890.2名）と比較して2.5名の減となっております。

1日平均入院患者数は令和7年2月までの実績で589.1名と前年同月までの実績（576.2名）と比較して12.9名の増となっております。新入院患者数は2月までの実績で前年同月までと比較するヒ37名の減となっております。平均在院日数につきましては、昨年度と比較して0.2日増えた11.9日となっております。

入院1人1日当たり診療点数は、令和7年2月までの実績で8,748.4点と昨年の実績と比較すると178.2点の増となっております。外来1人1日当たり診療点数については、令和7年2月までの実績で3,331.8点と昨年同月までの実績と比較して49.4点の増となっております。

紹介割合は、2月までの実績で91.3%となっており高い割合を維持しております。

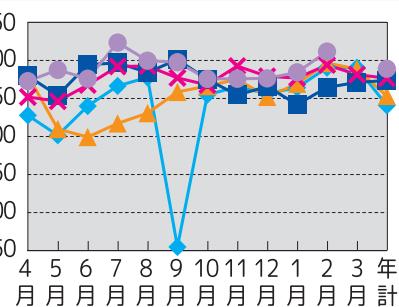
1日平均
入院患者数
(在院)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和2年度実績	527.8	501.6	540.0	566.5	577.7	354.8	555.0	565.3	556.5	564.2	590.5	590.4	540.9
令和3年度実績	580.4	509.8	499.3	517.2	530.7	558.6	566.3	575.2	552.1	569.3	596.6	588.7	553.3
令和4年度実績	579.6	554.0	594.5	596.7	584.3	601.1	575.0	554.6	565.7	542.1	564.5	571.2	573.6
令和5年度実績	551.9	546.4	567.8	592.1	592.6	577.1	567.8	592.6	579.1	576.9	594.1	581.4	576.6
令和6年度実績	572.8	587.6	576.0	623.5	599.7	597.7	575.8	575.9	576.4	584.4	611.7		589.1

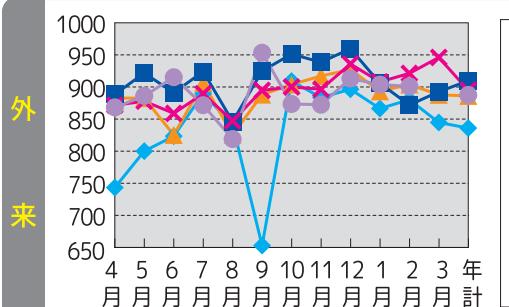
1日平均
外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和2年度実績	743.3	800.1	823.4	889.9	840.8	653.0	909.2	883.6	896.4	866.4	880.2	844.7	836.0
令和3年度実績	882.7	882.6	825.3	906.0	825.7	888.1	903.8	917.2	927.0	893.2	903.9	887.8	886.1
令和4年度実績	888.5	921.7	891.1	924.0	846.1	924.9	951.3	938.6	959.6	905.8	871.9	892.6	909.7
令和5年度実績	871.4	877.9	858.9	889.6	847.2	894.8	900.1	896.4	935.9	907.9	921.2	946.0	894.8
令和6年度実績	868.2	886.1	915.2	871.6	818.9	953.4	873.5	872.4	913.2	903.7	901.1		887.7

入院



外来



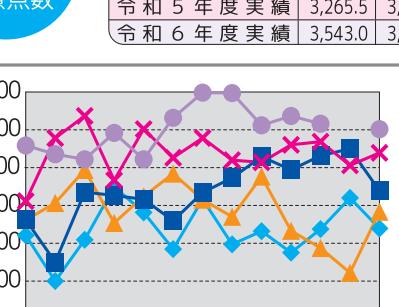
入院
1人1日当り
診療点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和2年度実績	7,862.5	7,500.1	7,827.7	8,247.6	8,044.8	7,753.7	8,149.1	7,791.3	7,895.8	7,725.7	7,912.4	8,159.6	7,917.4
令和3年度実績	7,983.7	8,119.7	8,381.9	7,961.4	8,172.2	8,352.7	8,146.2	8,010.4	8,329.4	7,899.1	7,762.5	7,565.7	8,050.3
令和4年度実績	7,986.1	7,650.9	8,205.6	8,179.4	8,148.4	7,979.0	8,202.6	8,318.7	8,486.7	8,383.0	8,494.2	8,550.1	8,215.4
令和5年度実績	8,134.0	8,634.1	8,810.2	8,299.8	8,705.5	8,478.6	8,634.9	8,459.3	8,442.2	8,580.9	8,605.9	8,418.0	8,517.2
令和6年度実績	8,575.7	8,506.4	8,465.6	8,675.5	8,466.0	8,795.2	8,995.0	8,991.3	8,735.6	8,809.5	8,748.4		8,704.7

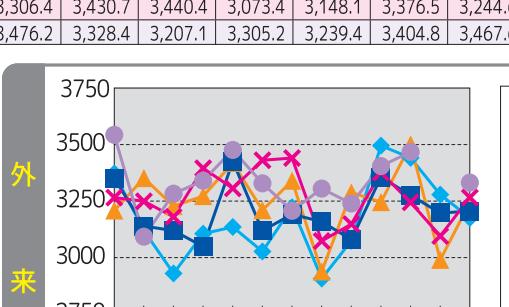
外来
1人1日当り
診療点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和2年度実績	3,372.3	3,119.3	2,930.1	3,105.9	3,135.4	3,027.2	3,222.5	2,907.3	3,074.9	3,495.5	3,441.0	3,278.8	3,175.6
令和3年度実績	3,208.4	3,351.9	3,227.9	3,272.2	3,418.7	3,209.9	3,340.1	2,938.5	3,288.3	3,245.5	3,500.6	2,990.2	3,243.9
令和4年度実績	3,351.1	3,139.6	3,119.2	3,049.0	3,425.7	3,118.9	3,191.8	3,158.9	3,079.7	3,356.1	3,275.7	3,197.4	3,205.3
令和5年度実績	3,265.5	3,249.2	3,180.3	3,395.3	3,306.4	3,430.7	3,440.4	3,073.4	3,148.1	3,376.5	3,244.6	3,095.5	3,266.1
令和6年度実績	3,543.0	3,092.6	3,282.8	3,340.4	3,476.2	3,328.4	3,207.1	3,305.2	3,239.4	3,404.8	3,467.6		3,331.8

入院



外来



紹介割合
推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和2年度実績	77.7	98.1	96.2	88.4	89.0	90.2	98.4	93.8	97.0	76.4	90.4	97.8	91.5
令和3年度実績	93.9	87.6	96.2	95.8	92.2	92.1	99.3	100.3	101.1	91.0	76.6	94.0	93.6
令和4年度実績	94.9	95.7	97.2	84.3	81.9	94.4	96.1	94.9	87.5	90.0	98.6	97.1	92.7
令和5年度実績	96.4	95.7	97.4	96.9	96.0	98.7	97.8	95.3	95.7	95.9	91.9	95.6	96.2
令和6年度実績	93.6	90.8	95.0	89.1	90.0	88.5	90.9	89.9	88.3	95.8	92.6		91.3

